

トピック(テーマ)	蚕都上田		
ねらい	幕末、日本で最初に生糸輸出をした上田、その後、蚕種輸出もはじまる。なぜ日本で最初に生糸(後に蚕種)を輸出できたのか。その背景を探るとともに、以後、蚕都上田はどのような道を歩んでいくのかを調べる。		
キーワード	上田城下町、上田宿、原町、海野町、幕府老中(上田藩主)松平忠固、老中阿部正弘、老中堀田、老中井伊直弼、伊藤林之助、町田吉五郎、小諸領小県郡飯沼村、吉池文之助、吉池由之助、吉池定之助、吉池泰助、松田玄冲、中居撰之助、中居重兵衛、上州吾妻郡中居村、横浜、武蔵屋北澤佑助、イギリス商人、丸山平八郎、上田生糸、依田生糸、提げ糸、蚕種、抜け荷、キリスト教、西洋音楽、三吉米熊、小県蚕業学校、蚕都新報、		
概要を知るためのツール	1	書名	上田は信州の横浜だった
		著者名	阿部勇／著
		出版社	上田小県近現代史研究会
		出版年	2013
		内容紹介	幕末の横浜開港以前から小県上田地域では生糸製造が盛んで、上州前橋へ生糸を大量に出荷していた。開港後、上田からの生糸輸出量が増大、上州生糸商人が「上田は信州の横浜であった」と表現するまでになった小県上田地域の社会や文化の発展を記している。
資料リスト	1	書名	蚕都信州上田の近代
		著者名	阿部勇、井川克彦、西川武臣／編著
		出版社	岩田出版
		出版年	2011
		内容紹介	小県上田地域の養蚕、座繰製糸、器械製糸、中居重兵衛、三吉米熊、賈金問題と紙幣流通などについて述べた論集である。
	2	書名	蚕都上田ものがたり
		著者名	新津新生、小野和英、阿部勇、他／著
		出版社	上田小県近現代史研究会
		出版年	2008
		内容紹介	小県上田地域の蚕種業を中心にこの地が「蚕都上田」と呼ばれるようになった過程と、蚕糸業に向き合う人々の努力について述べている。
	3	書名	上田近代史
		著者名	猪坂直一他／著
		出版社	上田市
		出版年	1970
		内容紹介	農業史とは別に蚕業史をとり上げている。蚕業史での項は「江戸時代」「開港の前後」「明治時代」「波乱時代」「戦後の推移」の5項目に分けて述べている。工業史での項は「絹紬工業」、商業史の項では「横浜開港と生糸商の活躍」「蚕種貿易の興亡」ほか生糸や蚕種、絹織物取引、について述べている。このように「蚕都上田」を意識して蚕糸関係について多くのページを割いている。
	4	書名	信濃蚕糸業史 下巻 製糸編
著者名		江口善治、日高八十七／著	
出版社		日本蚕糸会信濃支部	
出版年		1937	

		内容紹介	江戸初期から昭和初期までの小県上田地域の製糸業について、古文書や統計資料などをもとに執筆してある。寛文・享保年間の上田縞などについては、古文書を翻刻した史料が載っている。生糸輸出開始以降の状況(上田提糸や横浜との関係など)については、史料に加え商人の証言も添えて記してある。
雑誌	1	論題名	広告にみる絹の文化—蚕都上田を中心に—
		著者名	尾崎行也
		雑誌名	繊維製品消費科学
		出版年	2007
		巻号頁数	48巻6号 p. 370-377
	2	論題名	「蚕糸王国長野県」はこうしてつくられた
		著者名	新津新生
		雑誌名	信州自治研
		出版年	2008.12
		巻号頁数	(202), p7-16
インターネット	1	サイト名	蚕都上田アーカイブ
		URL	http://kjm.net/index_ghm.php?
		概要	「蚕都上田」における蚕業教育の中心的機関であった小県蚕業学校(明治25年創立)とその初代校長(明治25-昭和2年)三吉米熊に関するデジタル資料を公開
	2	サイト名	蚕都上田ものがたり
		URL	https://www.mmdb.net/santo-ueda/mono/index.html
		概要	上田の養蚕・蚕種、蚕都、学都、商都などについて説明
	3	サイト名	上田市公文書館目録検索システム
		URL	https://kobunshokan.city.ueda.nagano.jp/index.php
		概要	「蚕種」「小県蚕業学校」「生糸」で検索すると、資料目録を探すことができる
新聞	1	見出し	上田東京 三吉米熊の功績たどる
		発行機関	信濃毎日新聞 朝刊19ページ
		年月日	2002.10.4
	2	見出し	西部公民館 塩尻時報読み解く 蚕都見直し
		発行機関	信濃毎日新聞 朝刊16ページ
		年月日	2004.6.4
	3	見出し	「蚕都」上田でシルクサミット
		発行機関	信濃毎日新聞 朝刊20ページ
		年月日	2007.1.5